

社団法人 豊中市シルバー人材センター機関誌

ふれあい 第13号

豊中市北桜塚2丁目2番1号

編集・発行

社団法人 豊中市シルバー人材センター

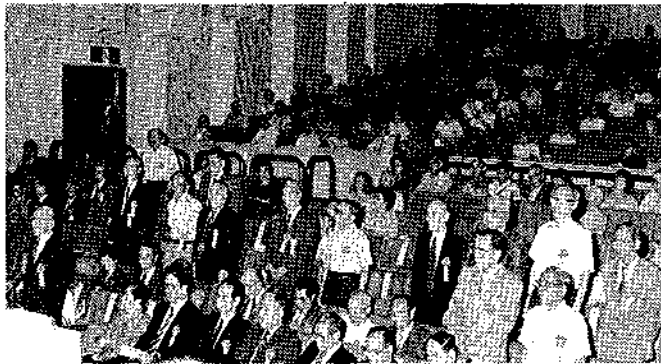
TEL (06) 856-1777(代)

設立10周年記念式典

社団法人 豊中市シルバー人材センター



十周年記念式典並びに
平成三年度通常総会
盛況裡に終る



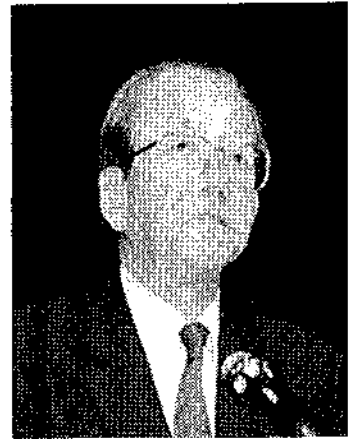
平成3年度通常総会



設立十周年記念式典並びに平成三年度通常総会が、六月十三日午後一時から、豊中市アクア文化ホールで開催されました。

総会は委任状を含め、四七四人が出席、議長に野村貞人氏が選出され議事に入り、議案第一号から第五号まで、原案どおり可決承認されました。

引き続き、設立十周年記念式典が行われ、まず、酒井理事長の挨拶に始まり、長年シルバー人材センターに対して、功績のあつた方々に表彰並びに感謝状の贈呈があり、続いて、来賓の祝辞、林市長、榎田議長、府労働部長、近畿・府シルバー協議会会長の方々から、お祝いのことばを頂戴し、また、全国シルバーからのメッセージの披露がありました。式典第二部では花柳社中の方々による、日本舞踊「寿三番叟」の披露がされた後、会員のみならず、祝賀パーティーが市民会館大集会室で開催され、会場は、立錫の余地もないくらい会員の参加があり、大盛会のうち、午後六時に閉会いたしました。今後も、十周年を契機にシルバー人材センターが地域に根差した活動となりますよう、一層のご協力をお願いいたします。



十周年記念式典 酒井千秋理事長

挨拶

本日、ここに、社団法人豊中市シルバー人材センター、設立十周年記念式典を、迎えるにあたりまして、皆様方と共に、心からお慶び申し上げます。

平素は、会員の皆様方におかれましては、当シルバー人材センターの事業運営に、多大のご支援、ご協力を賜わりまして、厚くお礼申し上げます。

また、本日の式典を挙げるにあたり、豊中市長様、市議会議長様を始め、大阪府、大シ協、北摂

各市のシルバー人材センター等、多数のご来賓の方々のご臨席を賜わり、錦上花をお添え頂きまして、厚くお礼申し上げます。

さて、豊中市シルバー人材センターは、高齢者の就業と生きがいの場として、昭和五十六年六月三〇日に発足いたしました。以来、お陰をもちまして、当センターも順調な発展を遂げつつあります。

願います。設立当時は会員数一三八人、契約金額は二、二〇〇万円でありましたが、現在では会員数は七五〇人に、また、契約金額につきましても約三億円と、着実にその成果をあげるに、至っております。

これもひとえに、豊中市当局を始め、発注者の方々、また、関係各位の絶大なるご支援・ご高配のお陰でありまして、心から厚くお礼申し上げます。

また、歴代の方々並びに会員の皆様方のためまぬご尽力のお陰であります。深く敬意を表しますと共に、心から感謝申し上げます。

現在、当センターが順調なあゆみが続いておりますとはいえ、未だ数多くの問題点を抱えております。

当面の課題といたしましては、
一、会員の増強と積極的な参加
二、会員ニーズに対応する就業機会の確保と提供
三、会員の技能の向上と安全就業の確保等

その他改善を必要とする数多くの課題を抱えておりますが、これら課題を一つ一つ克服していくことが、当センターにとって必要不可欠であり、それがひいては、「活力ある高齢化社会づくり」に貢献できるものと信じ、今後、全員一丸となって、地域に根差したセンターとして発展するよう、一層の努力を重ねて参りたいと存じます。

最後になりましたが、会員の皆様方の、一層のご協力と、市当局始め関係各位の、変わらぬご指導と、ご協力を心からお願いをいたしますと共に、皆様方のご健康・ご多幸を、心からお祈り申し上げます。私のご挨拶といたします。

役員紹介

※印の三名の方が総会において承認されました。

理事長	酒井千秋
副理事長	片山喜之
専務理事	元田一良
理事	山口将行
理事	長岡修
理事	中村とき
理事	今西渡
理事	大村弥吉郎
理事	山路政市
理事	西田貞義
理事	杉本精市
理事	正源義一
理事	宮崎英三郎
理事	増森貞子
理事	桃井延幸
理事	福田勝啓
※理事	久保田治夫
※監事	林泰野
監事	西川芳一

祝 辞



豊中市長
林 實 氏

豊中市シルバー人材センターが、このたび、めでたく設立十周年を迎えられ、本日、その記念式典がこのように盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。

平素、皆様方には、市政の各分野にわたり、格別のご支援ご協力を賜わりまして、厚くお礼を申し上げます。

豊中市シルバー人材センターにおかれましては、高齢者の就業と生きがいの

場として、昭和五十六年に発足されて以来、今日に至るまで、順調な発展を遂げられ、高齢者の福祉の向上と地域社会の発展に、大きく貢献を賜わって参りました。

特に、会員の皆さんの積極的な仕事に対する意欲と、律儀と親切さをモットーとした仕事ぶりは、市民の方々にとって大変喜ばれる等、着実に事業成果をあげてこられました。

これもひとえに、酒井理事長さんをはじめ、歴代役員の方々並びに、会員の皆様方のたゆまぬご努力の賜物であり、只今、酒井理事長さんに感謝状を贈らせて頂きましたが、改めて関係の皆様方に、深く感謝と敬意を表する次第でございます。

また、本日、酒井理事長さんから感謝状並びに表彰状をお受けになられました皆様方には、そのご荣誉に対し、心からお祝い申し上げますと共に、深甚なる敬意を表します。

本格的な長寿社会を迎えようとしている今日、高齢者の方々が、その豊かな経験と能力を生かして、積極的に社会参

加をされることは、活力ある地域社会づくりにとって、大変意義深いものと存じております。

それだけに、当シルバー人材センターの果たす役割は、極めて大きく、市民の皆さんが寄せる期待も、益々高まっております。

こうした、時代の要請と、市民ニーズに充分にこたえて頂き、皆様には、今後一層のご活躍・ご尽力を念じております。

豊中市も、今後、二十一世紀へ向けて、やさしさ・ゆとりのあるまちづくりを目指し、四十一万市民が、健康で生きがいのある、活力と魅力にあふれた「いきいき豊中」の実現のため、力強く邁進して参りたいと存じます。

どうか、皆様方には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、豊中市シルバー人材センターが意義ある、十周年を契機に、益々ご発展されますようお願い致しますと共に、皆様方のご健康・ご多幸を心からご祈念申し上げます、お祝いの言葉と致します。



豊中市議会議員

榊田 昭 氏

本日、ここに、豊中市シルバー人材センター設立十周年記念式典が挙行されるにあたり、市議会を代表して、一言お祝いの言葉を申し上げます。
設立十周年、誠におめでとございます。

貴センターは、昭和五十六年、来るべき高齢化社会への対応や、高齢者の方々の社会参加の問題が、社会的に大きく取り上げられる中、多くの期待を担い設立されました。

以来、高齢者の方々が、その豊かな経験と能力を生かし、就業を通じて、自らの生きがいが高めるとともに、活力ある

地域社会づくりに、寄与することを目的とし、今日まで、地域に根ざした活動を積極的に展開され、当市の高齢者福祉の向上や、地域社会の活性化に、大きくご貢献をいただいております。

このことは、酒井理事長さんをはじめ、歴代役員並びに会員の皆様方の、献身的なご尽力の賜ものであり、心から敬意を表し、感謝を申し上げる次第でございます。

ご承知のように、わが国における人口の高齢化は、世界に類を見ないほど急速に進んでおり、二十一世紀前半には、四人に一人が高齢者となる社会が、到来するものと思われれます。

このような中で、貴重な高齢期をいかに健康で、生きがいをもって生きるかが重要な課題となっており、より住み良い高齢化社会の実現に向け、当市におきましても、積極的な施策を推進しているところであります。

高齢者の方々の尊い経験とその能力は、社会の発展に欠かすことのできないものであり、貴センターの役割は重要性を増

すものと思われれます。

このことから、このたび十周年を迎えられましたことを契機とされ、さらに力強い活動を進めていただきますことを、期待するものであります。

私ども市議会といたしましても、全ての市民の皆様が生きがいを持ち、安心して暮らすことのできるまちづくりを推進するため、さらに努力してまいります。

おわりに、豊中市シルバー人材センターのますますのご発展並びに、皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。





大阪府労働部職業対策課長

稲葉 信重 氏

本来であれば労働部長が出席いたしまして、祝辞を申し上げるところでございますが、公務のため出席することができませんので、私から一言お祝いのご挨拶を申し上げます。

さて本日は、社団法人豊中市シルバー人材センターが設立され、十周年を迎えるにあたり、盛大な記念式典を開催されますことは、誠に意義深く、心からお喜び申し上げます。

また平素は、本府の労働行政の推進につきましまして、貴センターからの格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

ご承知のとおり、シルバー人材センター

は、急速に進展する高齢化社会に対して、健康で働く意欲と能力を有する高齢者を対象に高齢者の方々が、長年培ってこられました、豊かな経験と技能を就業するというところで、地域社会に生かし、生きがいと健康、そして活力ある地域社会づくりを目的として、昭和五十五年に国の施策として実施され、全国的に広がりを見せて参ったところでございます。

また、昭和六十一年十月から施行されました、「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」によりまして、シルバー人材センターが、法律に基づく指定法人となることとなり、制度的な基盤の確立がなされたこともありまして、一層の拡大、充実が図られてきたところであります。

この間、シルバー人材センターのためみない御努力の結果、社会的評価も高まりまして、現在では、全国に四百九十五団体が設立されており、本府におきましても、三十一市一町、三十四団体が設立され、会員数も二万人に届こうとしております。

このような状況の中にありましたは、

貴シルバー人材センターは設立以来、会員数はもとより、事業実績の拡大と充実を図るなど、順調な発展を遂げておられますことは、誠に同慶の限りであり、これもひとえに、林實市長をはじめ、市当局並びに、酒井千秋理事長、役員関係者の方々、会員の皆様方のご尽力の賜ものと、心から敬意を表する次第です。

本府におきましても、この事業を、高齢者対策の重要な施策のひとつとして、より一層の充実強化が必要でありますことから、本年度は、シルバー人材センターの府民への普及啓発を図りますため、高齢者就業フェスティバル事業をはじめ、シルバー人材センター事業の充実と、円滑な事業運営を図りますため、経験交流大会を予定しているところであります。

これら、施策を円滑に推進してまいりますためには、何と申しましても、各シルバー人材センターの御協力が不可欠でございますので、今後共、より一層の御協力をいただきますようお願いいたしますと存じます。

また、貴シルバー人材センターの向上

発展のため、市当局をはじめ、役員並びに関係者の皆様方には、より一層ご尽力いただきますとともに、会員の皆様方には「親切」「正確」「安全」をモットーに、健康には十分御留意いただきまして、ご活躍されますことを期待いたしたいと存じます。

最後になりましたが、貴センターの今後のご活躍と、ご発展をお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



(社)全国シルバー人材センター協会

会長 関 英夫 氏

本日ここに、社団法人豊中市シルバー人材センター設立十周年の記念(式典)

が、盛大に開催されましたこと、誠に御同慶の至りで、心からお祝い申し上げます。

これまでの十年の歩みの中で、豊中市シルバー人材センターの事業実績が年を追う毎に、伸展してまいりましたことは、偏に酒井理事長殿をはじめ、本日ご参会の皆様方の献身的なご努力と、そして地域社会に喜ばれる数多くの仕事を、立派に遂行されてこられた賜と、深く敬意を表する次第でございます。

昭和五十五年に創設されましたシルバー人材センターも、現在では全国に四九五団体が設置され、会員数も二十三万人となり、受注件数百万件、受注高も八百億円に達するなど、センター事業はこの十年で大きく発展してきております。

更に、平成三年度には、全国で七十団体の新設が認められ、全シ協の当面の目標であります六百四十団体の設置まで、今一步の段階に近づいてきているわけでございます。

このような事業実績の伸展と、全国主要都市の殆どすべてにわたって、本事業

に対する理解が浸透したことは、何と申しましても、各センターにおける皆様方が、シルバー人材センター事業の理念を十分に体した御尽力の結果として、各地域から極めて高い評価を受け、そして社会の期待が大きく膨らんできたものと、確信いたしております。

私どもは、二十一世紀を指呼の間に望む、これからの十年間を「シルバー人材センター事業が、二十一世紀における最も有効な高齢者の就業対策として、機能するよう拡充を図っていく期間」であると位置付け、当面の課題であります全国ネットワークの完成、高齢者の就業拠点の確立、会員の確保、就業事故の防止、就業率の向上等に、更に一層の努力を重ねていかなければならないと考えております。

お陰様で、本年度には国(労働省)の深いご理解のもと、新規予算として、全国五十カ所にシルバー人材センターの技能講習室、作業場等の建設費が認められ、働く高齢者の拠点づくりにより、大きな期待が持てることになりました。

どうぞ皆様方におかれましても、この十周年を節目として、今後更に工夫を凝らしながら、魅力あるセンターづくりにお取り組みいただくよう、切望する次第でございます。

終りに、豊中市シルバー人材センターの益々のご発展と、本日お集まりの皆様方のご健勝を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。



近畿シルバー人材センター連絡協議会
(社)大阪府シルバー人材センター協議会

会長 森本 登志雄 氏

このたび社団法人豊中市シルバー人材センターが、創立十周年を迎えられ、本日、このように多くの皆様方のご出席の

もと、盛大に記念式典が開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

いまや、貴センターは会員数は七五〇名、平成二年度の契約金額は約二億四千万六百万円に達するまでに、事業を発展されました。

このことは、会員の方々をはじめ、役員の皆様が豊中市の協力を得て、シルバー人材センター事業の普及啓発は勿論、家庭や企業からの受注開発また作業所の活用等にもみられるような、就業機会拡大の諸活動を熱心に行ってこられた賜物であり、皆様方に深く敬意を表する次第です。

私たちは、我が国の高齢化がピークに達する二十一世紀において、シルバー人材センター事業が高齢者の働く喜びと、社会参加の輪を一層広げ、地域社会の活力を維持するための有効不可欠な、就業システムとして、機能を十分に発揮させるべきだという使命を痛感しております。

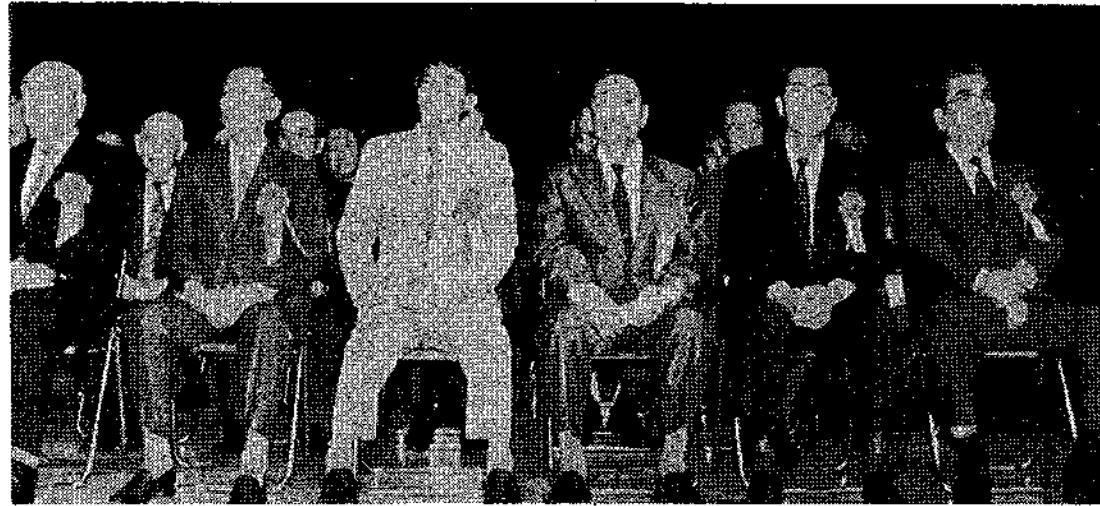
そのために、シルバー人材センターは、自主・自立・共働・共助の理念のもとに、これからの社会的変化に対応しながら、

高齢者の多様な就業ニーズに答えられるような、質量ともに充実した事業として、さらに成長させなければならぬと思えます。

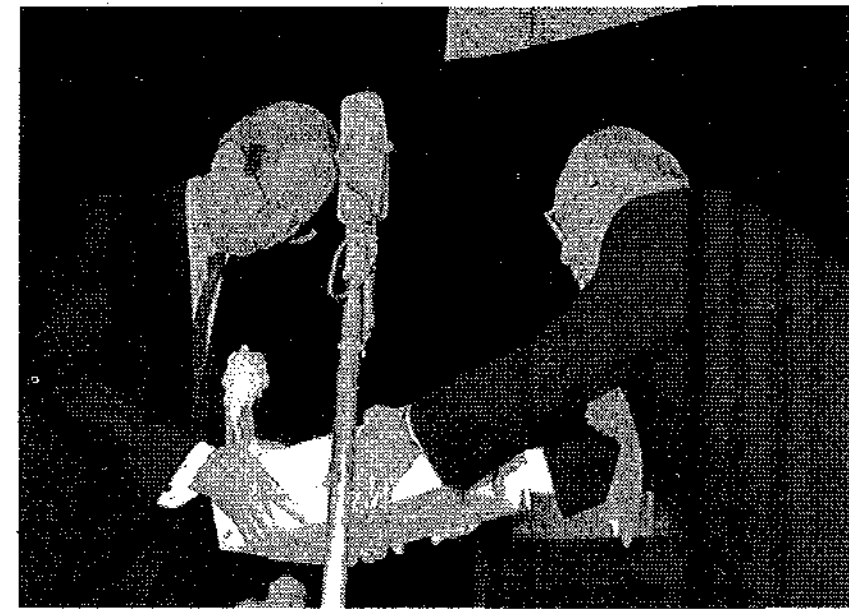
貴センターにおかれましては、過去十年間の実績の上に、さらにこの事業の発展のために、府下センターの先頭にたつて、ご活躍してくださいませよう祈願いたしますとともに、会員の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます、お祝いのことばといたします。



設立10周年記念 式典 アルバム



↑ 来賓の方々 →



林賞臺中市長から酒井理事長へ感謝状の贈呈

寿三番叟の千歳を演じる花柳幸種さん



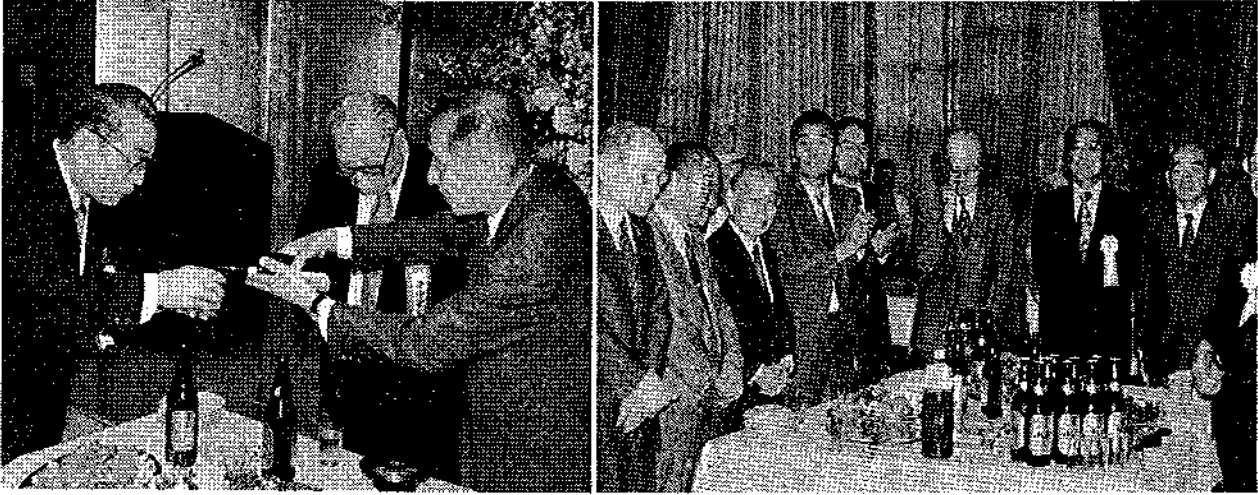
役員の方々



役員の方々



寿三番叟の三番叟を演じる花柳季佳さん



10周年を祝し乾杯 (林實市長)

風景



シルバーの今後の発展を祈念し





なごやかな
祝賀パーティー



受付風景





つひの栖 すみか



第三班
室 克己氏

是がまあ

つひの栖 雪五尺(一茶)

江戸末期の俳人、小林一茶のおびただしい作品の中の一句です。

信濃(現・長野県)の豪商の家に生まれたのですが、遺産相続の争いに嫌気がさして流浪の旅へ。俳句は、いわば俗人関係の煩わしさからの逃避であったのか、諦観であったのか、あるいは悟りであったのか知る由もありません。が、たとえば

やせ蛙 負けるな一茶

これにあり

雀の子 そのけそこのけ

お馬が通る

などの句には一茶の境涯(人俗を離れた小さな生きものたちへの、優しいまなざし的一端)を垣間みるような気がします。

話は変わりますが、私も四十年間にわたるサラリーマン生活、転勤から転勤の流転を繰返し、この九月末、故里(九州・博多)の「つひの栖」へ落ち着くことになりました。

東京―香春―門司―高知―千葉―大阪。とくに大阪は一番長く十六年になります。一年前六十歳を機にシルバー人材センターにご厄介になり、事務局の田辺さんには大変お世話になりました。昨年、豊中美術展のお手伝いをさせていただいたことが、いい思い出になりました。

博多周辺にもシルバーのプロックが数カ所あるようですから、落ち着いたら入会したいと思っております。

以前に、本誌だったと思います。が、シルバー行政について、いささか、愚見を呈したことがあります。同じような趣旨のことで恐縮ですが、本当の意味での行政はこれからはないでしょうか。それは豊中市、大阪府―つまり地方行

政から、ひいては、国の政治まで廻ることになるかと存じます。

タテの線が一本ハッキリ通ってこそ、ヨコの線(シルバーの輪)が大きく、広くなっていくのではないかと思います。

具体的に申しあげれば、現在の職安との統合なども一例として、挙げられるでしょう。シルバーの職員の方々がほんとうに真剣に努力していただいているのに、それを無にするようなことのないような、行政を望みたいと存ずる次第です。

なんだか、「つひの栖」から、

われしらず話が脱線してしまいました。が、一茶の冬寒むの栖も、それなりの風情があり、博多・室見川のほとりのわがアバラ家も、季節に応じた海の風景に、捨てがたいものがあるようです。白魚(しらうお)のしゅん(六月)は過ぎましたが、海鳥が橋に一列に並んで、羽根を休めています。

そこで、「つたなき一句」

しら魚の 姿が消えて

閑(ひま) かもめ

俳句雑詠



第五班
藤本 哲夫氏

大川に 水尾煌き 麗かに

高々と 舞ひて谷越す 蝶の群

風ふくみ 蒲公英の絮 さまよえり

菖蒲湯 菖蒲寄り来て 香ばしく

青嵐 乙女の髪も 横向けり

紫陽花が 雨に洗はれ 傘かるく

ボケない秘訣



十二班
加藤 すぎ氏

- 一、若さを保つ
 - 二、足腰を鍛える
 - 三、塩分を控える
 - 四、規則正しい生活
 - 五、勉強をする
 - 六、気を使わない
 - 七、衣食住の事は自分でする
- 一日でもひとつなりと実行いたしたいと、日々勤めております。
- 皆々様、お元気で同じ仕事を
する仲間同志、楽しく働きましょう。

忘れたいもの

忘れる事は、覚えることにくらべると、たやすいことだと思ってしまう。

ところが、どっこい、どうして
どうして、人を恨み・妬み・憎み
・争い・要求次第を打つ心、数え
るときりがない。

このようなことは、忘れたいもの
ですが、なかなかむつかしいも
のですね。

仕事の帰りに、ふと見つけまし
た。
本当に良い言葉だと思えます。

シルバー天国・天豊
山荘・健康長寿憩い
の村・つくりの概況



十三班
原田 天豊氏

毎週末を欠かさず湯郷に通って、
自然野菜作りに励む傍ら、表記の
憩いの村の構想を練り、煩わしい
行政に頼らず、自分等の力で老後
に備える為に、新しい天国を作り
たいと言う、私の事を新聞で見た
と言って尋ねて来られ、土地を欲
しいと言われる方七名と私、計八
名の同志が集まり、それぞれに胸
を膨らませ企画を進めております。
会社員・自動車修理工・元銀行
員・大工・おぼろさん・色々な方
が集まり、にぎやかです。
久留島整骨院は開店、治療を始

め、大勢の患者さんが通院してい
ます。

都会とちがって村人は、いたっ
ておおらかで、時には話がずれる
事も有りますが、誠心誠意真心で
話し合い、総てを円く解決してお
りますが、都会人の中には田舎の
事に疎い人がおり、私の悩みの種
です。

週末の山荘暮らしも九年目、緑
の森の中にポツンと建てた赤い屋
根の一軒家も、見晴らしのよい別
荘分譲地の真ん中になってしまっ
た。

無人養鶏にも成功して毎週すば
らしくおいしい、一二〇コの卵に
ありつき、自然野菜友の会の皆さ
んと喜びを分かちあつております。

無農薬・有機質堆肥で育てる自
然野菜、姿や見掛けは悪いけれど、
味は抜群、子供のころ食べた田舎
のお袋を思い出す。

失明と胃がんの後六年位薬を飲
んで居ない。自然食を食べている
と体の調子が良いので、薬と無縁
になつてしまった。

そして、幾ら仕事をしても疲れ
を感じないので年中休みなし。
天国がドン々逃げていく
(会員の皆さん健康に注意しま

しょう)
※ふれあい第11号「シルバー天国」
の続きです。

標語

老骨も勤め果たして 帰路につく
孫の笑顔 まっている

あれこれと 仕事の上の小言聞く
その場は笑顔で (ハイ)と言う

行き来する 車の間を抜けてゆく
急ぐ気持ち 譲り合う

交通道徳 くそ食らえ
割り込み追い越し 前ふさぐ

ふと思ひ出す 案じごと
手元おろそか 事故の元

若者に まけじ魂 出しきつて
腰をなげなげ 帰路につく

今日も又 齢に応じた 仕事する
昔の事を 語りつつ

月一金はシルバーの仕事感謝して
土日 山荘 土まみれ

善光寺詣り



十一班
山田 正元氏

これまで、二度ほど善光寺詣りをしましたが、本年は私共、夫婦の金婚式を祝って、息子夫婦からのプレゼントで、七年に一度の、前立本尊御開帳盛儀の年に当る、善光寺を訪ね、思い出に残る旅を楽しみました。

一日目は、藤村の詩「旅情」で有名な、千曲川のとおり、萬葉の頃から多くの歌に詠まれ、数多くの文人墨客が訪れてきた。

戸倉上山田温泉郷に宿をとり、二十六の歌碑が並ぶ、萬葉公園、城山公園、日本歴史館初め、川風を受けての文学散歩のあと、肌ざわり柔らかな湯にひたり、信濃路の、旅情を満喫して、静かに夜は更けてゆきました。

二日目は、善光寺へ。

太古の昔から時を越え、今も変わらぬ庶民の信仰を集めて来た、大伽藍の椀皮葺の大屋根が、すがすがしい五月の空に輝き、梵字の

大回向、柱に紫色の線香の煙が絶えない中、広大な境内は、善男善女で埋まり、貫主様、お上人様の、「お数珠頂戴」の行事に、タイムリグ良く、逢うチャンスにも恵まれ、速い日のロマンスのたたずまいに思いを馳せる一刻でした。

二日に亘り、好天に恵まれて信州土産の袋も重く、家路につきました。

△善光寺▽

回向桂 煙たゆう 五月空
掌合わす人の ざわめきに湧く

△千曲川▽

川風に 信濃の春の 湯の街は
西湯輝く 遠れの峰

電話と手紙



第十八班
山口 正雄氏

私達人間は、歳を重ねるに従って、その年齢にふさわしい喋り方と云うものが、自然に身に付いてくるものであります。



十二班
溝尾 ミツノ氏

昼下り 蟬の鳴き声 暑さ増す
献立の 迷ふことなく カレー食
暑さにも 秋風通る 長廊下
自転車で 坂道下る 子等の群
命日を 想い出し夏 我が里へ

即ち、十代、二十代の方は、十代、二十代の喋り方。三十代、四十代ともなれば、その年齢に応じた語り口で、ほんほんお喋りが飛び出す。(喋るのに道具はいらない。手間もかからない手っ取り早い。)

そこで、大事な話にしても、電話で片付ける。そんな、今日此の頃。

従って、葉書一枚、手紙一本書くのは邪魔くさい、面倒くさいで書かなくなる。書こうとしない。書けなくなる。

書き離れてしまう。

一方お喋りの方は、どんどん、エスカレートして、益々うまくなる、上手になってゆくが、さて、

書くことはさっぱり駄目や、苦手や、そんな暇がないと逃げてしま

う。これでは、字を書くどころか、日本語の文字さえ忘れてゆきます。勿論、今の時代、電話も結構です。然し、文通によって、手紙の良さを振りかえってみたいものです。読み返しのできる、なつかしさ楽しさ。

様々な想い出が心を過ぎります。旧交を温める、ドラマがあります。

まず、ものを書くことの喜びを大切にしたいものです。

折々に 遊ぶいとまの ある人の いとま無しとて

書をかかぬかな

自然の楽しみ

第十三班
原田 天豊 氏

最近、季節感が分からない世の中となつてしまった。年中、野菜、果物が出まわつて居るし、夏は冷房で涼しく、冬は暖房で暖かく快適な生活を営む事が出来る。

人生わずか五十年のことわざが夢の様だ。

私も、八月で七十歳となる。失明、胃がん、何のその。

自然野菜作りと、シルバー人材センターの仕事で休む暇なしの、日常を過ごしている。

三百六十五日、一日も休まないで、バスツアーも不参加で、申し訳無いとおもっています。

無農薬、有機質堆肥で作る野菜の中に、自然交配されて、色々な珍しい野菜が出来ている。

誰も住んで居ない山荘に、鶏だけで生活して、おいしい卵を、毎週百二十個産んでくれる。

今年、雞四十羽買ったが、「イタチ」に、十四羽取られてしまった。

その雞が全然飛べない。止まり木にも止まれないのです。捕らえて、止まり木に乗せてやっても落ちてしまう。それも、ばたと羽根を広げて落ちるのでなく、どすんと、落ちてしまう。中には、高所恐怖症のものがいて、全然、止まれない。

羽根を広げて飛ぶまねをしてやっても、中々覚えない。

それに、自分の足で、餌を蹴散らす事も知らない。

産まれた時から、狭い所で、あてがいの餌をもらつて暮らしていたので、自分で暮らす事を知らない。

どこへ行くにも、集団で動く。一匹が、餌をくわえて走り出すとぞろぞろと、みんなが後を付いて走り出す。

そのうち、慣れてくるでしょう。畑を耕すと、カブト虫が出てくる。

これも、面白い。

近づくと、後ろ足で立ち上がるが、中には元気が良すぎて、後ろに、ひっくり返るのがいるが、起き上がれない。

色々な楽しみが、疲れをいやしてくる。

設立十周年記念式典

感謝状贈呈者

地域班	役員	地域班	役員	職員
織田光夫	江頭善蔵	高野賢二	片山喜之	中井敬士
河嶋 勝	久保田常豊	浅井静子	山口将行	田中杉野
谷脇次男	西岡正六	有馬郁雄	今西 渡	
坊 栄太郎	石田芳美		杉本精市	
穂崎政治郎	東 武雄			
幸田朋和	福田 茂			
宮崎三雄	深田 稔			
山路政市	長坂浩吉			
原田幸治	正源義一			
元田一良	長岡 修			
大村弥吉郎	大村弥吉郎			
楠本友安	西田貞義			
荻田幸子	熊田 潔			
西田貞義	西川芳一			
増森貞子	野口高茂			
入江平一	金子勝蔵			
小林信太郎				
田邊光廣				

あとがき

十周年の記念式典が、無事盛会のうちに終り、過去の苦勞の思い出が、また、楽しい思い出が、走馬燈のようにみなさんの脳裡をかすめたことでしょう。

シルバー人材センター事業も、ひとつの安定期を迎えているように思いますが、これからは、もうひとつ飛躍することが大切です。

会員の増・受注対応等、未だ多くの問題もかかえており、これについての解決策をみなさんと一緒に、考えていかなければと思っております。

この「ふれあい」が、会員の方々の交流の場として、また、センターの発展に役立ちますと共に、今後共、よろしくご協力をお願いいたします。原稿をお寄せ下さった方々に厚くお礼申し上げます。

編集サークル

- 西田貞義
- 熊田 潔
- 西川芳一
- 野口高茂
- 金子勝蔵